青森りんごができるまで

2.

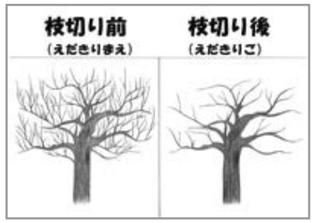
①枝きり

冬、青森県ではたくさんの雪が降ります。

農家のおじさんたちは、雪が積もっているりんご畑に行き、

りんごの樹のいらない枝をノコギリやハサミで切ります。

枝切り（えだきり）



3.

②枝きり前、枝きり後

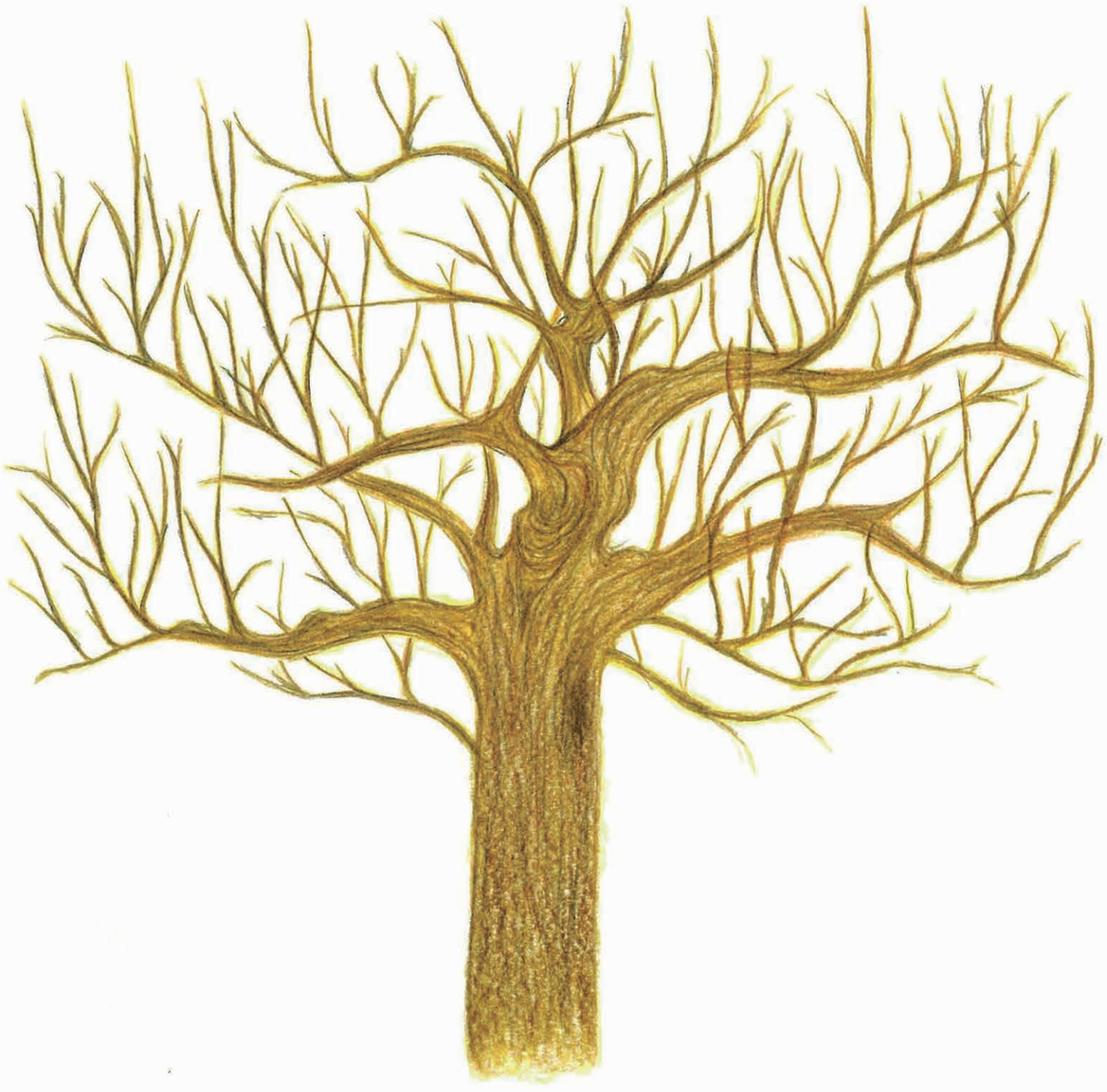
（絵をさしながら）

ごちゃごちゃした樹がさっぱりしました。

こうやっていらない枝を切ってあげると、

秋に大きくておいしいりんごができます。

枝切り前
（えだきりまえ）



枝切り後
（えだきりご）

4.

③肥料まき

春になって雪が消えると、
畑に肥料をまいてりんごの樹が元気になるように
栄養をあげます。

肥料まき（ひりょうまき）

5.

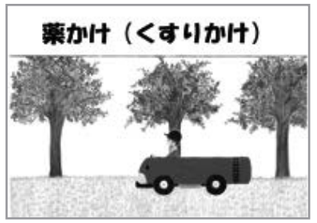
④草刈り

暖かくなってくると、草が生えてきます。

草ボーボーの畑だと、りんごの樹に栄養がいかなくなるので、

機械を使って草を刈ります。

草刈り（くさかり）

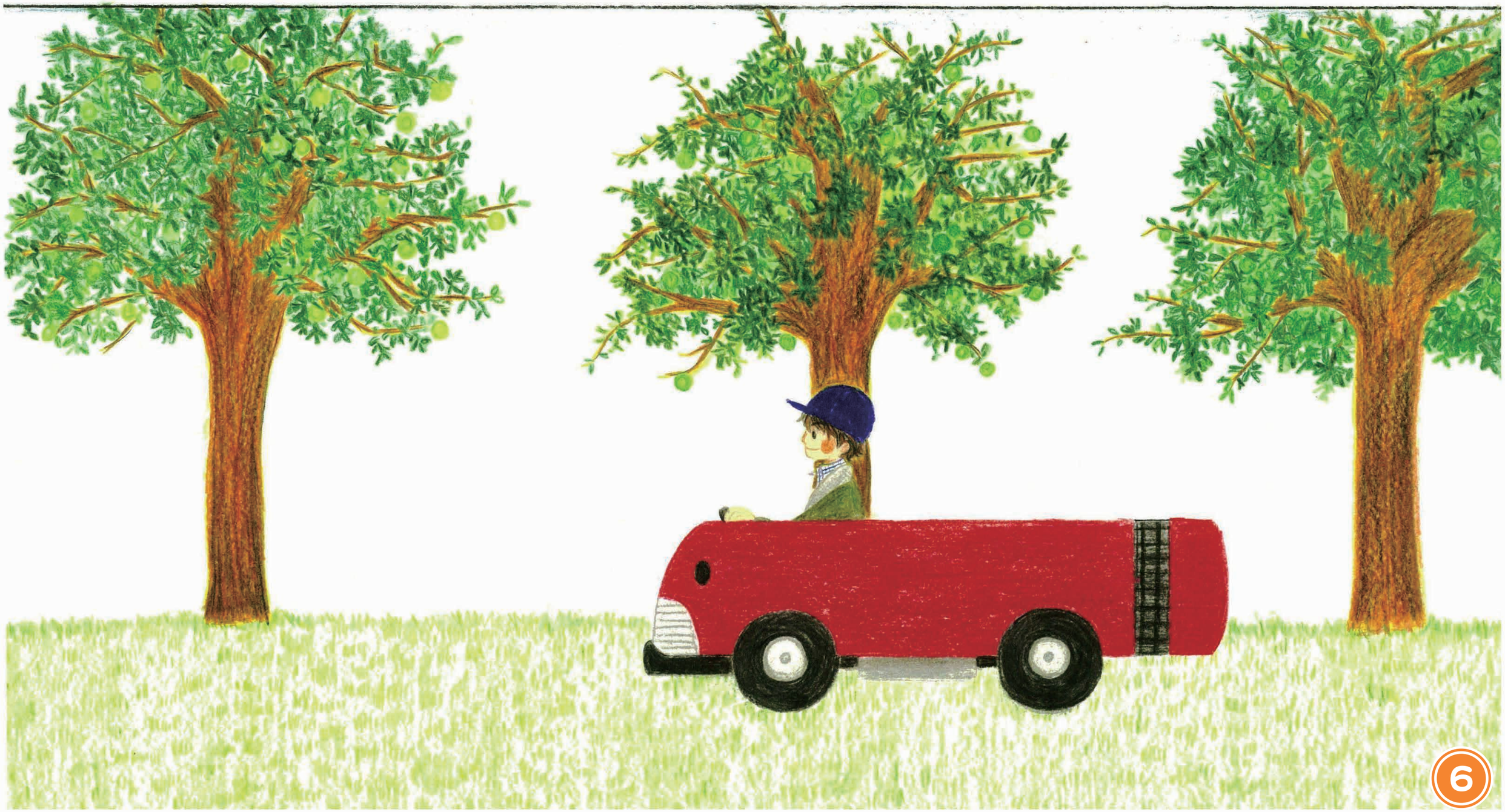


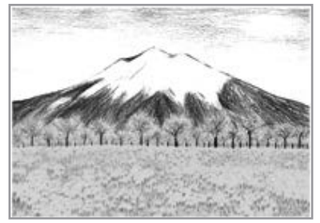
6.

⑤薬かけ

みんなが風邪をひいたりお腹が痛くなったりするように、
りんごも病気になったり葉っぱや実を
虫に食べられてしまったりします。
そこで、りんごの樹を守ってあげるためにお薬をかけます。
みんなが安心してりんごを食べられるように、
安全なお薬を正しく使っています。

薬かけ（くすりかけ）





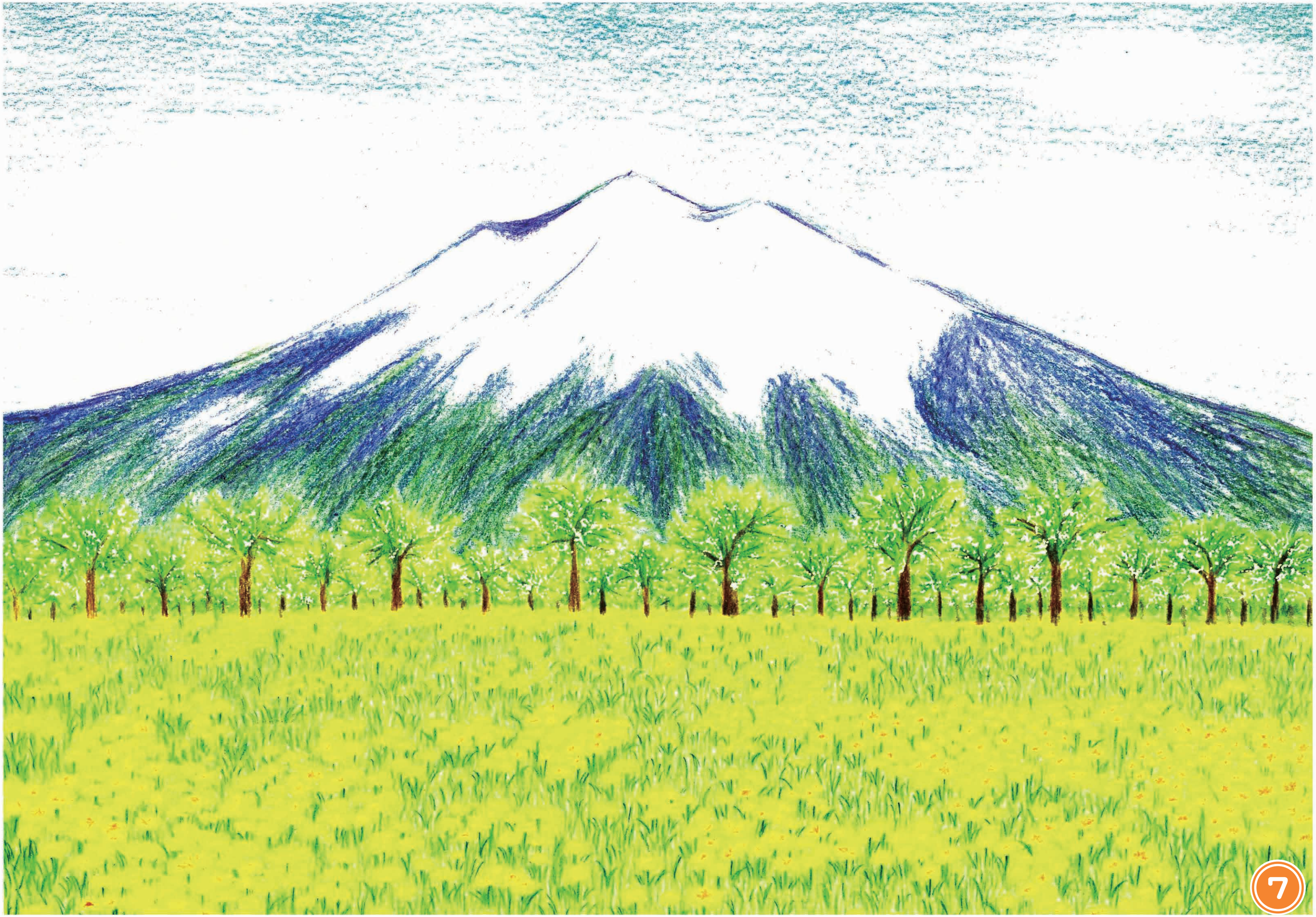
7.

⑥春のりんご園

これは春のりんご畑です。

りんごの花がさいて、畑の下には黄色いタンポポが咲いて

とってもきれいです。



8.

⑦授粉

りんごの花が実になるように授粉という作業をします。

マメコバチという八チさんにお手伝いをしてもらっています。

（絵をさしながら）

これは畑に作った八チさんのお家です。

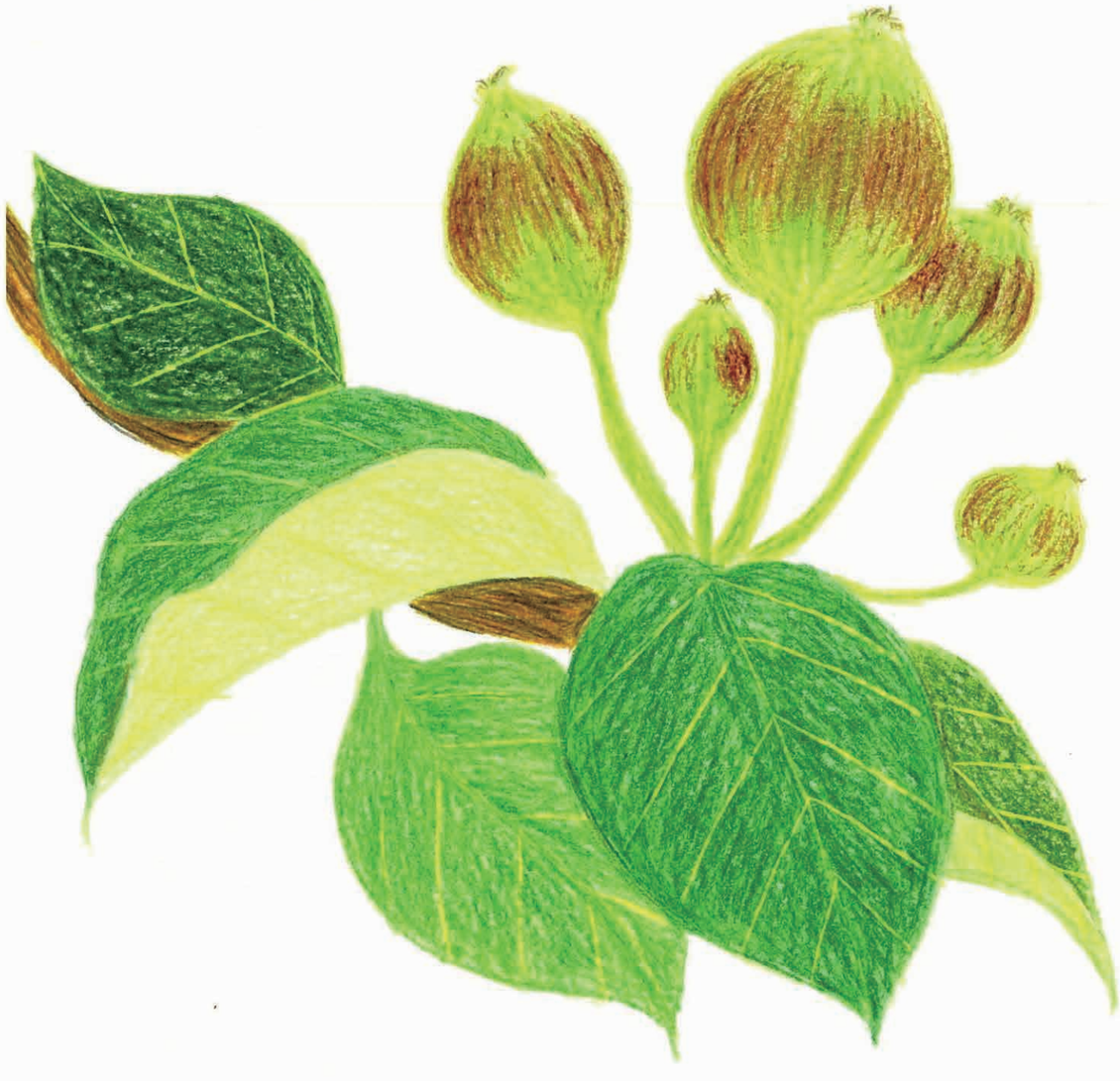
授粉（じゅふん）

9.

⑧摘果（実すぐり）

花が咲いた後、小さな実がたくさんできます。
でも、よくばって全部そのままにしておくと
秋に小さな実しかできません。
それに栄養を実にばかりとられて
りんごの樹が疲れてしまいます。
それで、こんなふうに（絵をさしながら）
真ん中の実だけを残して、残りをとります。

摘果（てきか）



10.

⑨袋かけ

りんごの種類によっては、

キレイな色のりんごを作るために、袋をかけてあげます。

袋かけ（ふくろかけ）

11.

⑩袋はぎ

9月なると、袋をはぎます。

はいだですぐのりんごは白っぽいです。

それがお日様にあたるとキレイな赤い色がつきます。

袋はぎ（ふくろはぎ）

12.

⑪葉摘みと玉まわしとれるまであと一頑張りです。

秋になり、りんごがお日様の光が実にあたるように葉っぱをとったり、

枝などのせいで影になっているところにも

キレイに色をつけるため、（絵をさしながら）

こんなふうにりんごをくるっと回してあげます。

葉摘み・玉回し（はつみ・たままわし）

13.

⑫収穫（りんごもぎ取り）

ようやく収穫です。とすぐにキズがついてしまうので、

りんごは乱暴にするもぎ取ります。

一つひとつ優しくも農家のおじさん、おばさんが

こうして一年かけて

大事に育てたりんごができました。

収穫（しゅうかく）

1.

「青森りんごができるまで」

みんなりんごは春、夏、秋、冬のいつとれると思いますか？

（園児に問いかけ）

そう、りんごは秋にとれます。

でもりんご農家のおじさんやおばさんは冬や春、夏も

一生懸命りんごの樹のお世話をしています。

今日はおいしい青森りんごがどうやってできるのか、

一緒にお勉強しましょう。